

## 小学校六年生「十五年戦争はとめられたのか」

中 窪 寿 弥

### 一 教 材 観 一十五年戦争の本質と仕組みを中心に

マスコミの影響を受けて、クラスでも一部男子の間でサバイバルゲームがはやったことがある。戦争体験のない子どもたちが、戦争をゲーム化したりしてきている今日、十五年戦争を学習する意義は極めて大きい。この戦争によりファシズムが敗北し、日本の民主化と平和を求める力が一層大きく伸びたからだ。平和と民主主義を担う未来の主権者である子どもたちには確かな歴史認識を育てるためにも力を入れたい教材である。そこで私は特に次の二点に主張を置いて授業を組み立てた。

一つは「聖戦」と美化されようともこの戦争の本質は侵略にあったということだ。これを子どもにわからせるには日本民族の立場だけからみると、どうしても被害の面が強調されてしまう。そのため本実践では、アジアの他民族がこの戦争をどうみていたのかという立場をかえた資料を用意した。

「なぜ多くの民衆が戦争に反対しなかったのだろうか。」子どもはすぐにそういった疑問を持つ。反対しなかったのではなくて、反対できなかつた状況がつくられていたのだ。二つめはどのようにして国民が戦争という体制に巻き込まれていったのかという戦争の仕組みについてもわからせようと考えた。その中で科学的に社会を認識する力も伸びればと考える。また

単なる過去の批判に終わらぬように注意した。

○目 標

経済危機を乗り越えるため、軍部が中心となって大陸へ侵略し、国民を犠牲にしながらかげがえのない生命を数多く奪い（加害、被害の両面から）、十五年もの間戦争を続けた大日本帝国が敗戦を迎えた姿をわからせる。

○指導計画（全十四時間）

第一次 日中戦争への道……………四時間

・ 深まる不景気   ・ 満州事変   ・ 軍人が政治を動かす   ・ 日中戦争

第二次 大日本帝国の崩解……………八時間

・ 太平洋戦争   ・ 戦争と国民生活（三時間）   ・ 空襲   ・ 沖縄の戦い   ・ 原爆投下と敗戦   ・ 「大東亜共栄圏」とは

第三次 まとめ……………二時間

二 実践例 ― 子どもは何を認識したか

① 満州事変

ねらい

……………深まる経済危機の中で、台頭してきた軍部が満州事変をおこし、国民を巻き込みながら大陸への侵略できり

ぬげようとしたことを理解させる。

展開

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	準 備 物 (資 料)
<p>1、深まる不景気の復習をする。</p> <p>2、日本はなぜ満州事変をおこし中国へ侵略したかを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・南満州鉄道爆破</li> <li>・「満州は日本の生命線」</li> <li>・「九・一八」(中国の歌)</li> </ul> <p>3、満州国の実態について理解する。</p> <p>4、国際連盟の決議と、日本の国際連盟脱退について考える。</p> <p>5、まとめ</p>	<p>。欠食児童数二十万人等</p> <p>。不景気から脱するため軍部・政府・資本家を中心となって大陸へ侵略したことを知らせる。</p> <p>。マスコミが軍部の行動を支持する世論をつくりだしたことに触れる。</p> <p>。中国の民衆がこの事件をどうとらえていたか、日本の国民の声と比べさせる。</p> <p>。傀儡政権</p> <p>。四十二対一で日本の満州占領をどの国も支持しなかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界地図</li> <li>・当時の新聞記事 ①</li> <li>・国民の声 ②</li> <li>・「九・一八」③</li> <li>・満州国での労働賃金表 ④</li> </ul>

資料

① 柳条湖事件の新聞報道 —— 東京日々新聞・一九三一年九月十九日

△奉天十八日発電通至急報▽ 十八日午後十時三十分、北大宮の西北において暴戻なる支那兵が満鉄線を爆破し、わが守備隊を攻撃

したので、わが守備隊は、時を移さずこれに応戦し、北大營の一部を占領した。(東京日々新聞・一九三二年九月十九日)

② 満州事変に対する神戸市民の感想 —— 神戸新聞・一九三一年九月二十日

車夫(海岸通り)……一体から幣原があかんよって支那人になめられるんや。向ふから仕掛けたんやよって、満州全体、いや支那全体占領したらええ。そしたら日本も金持ちになつて俺らも助かるんや。

市電車掌……やりやいいんです。やつつけりやいいんです。大体支那の兵隊といえは単法なやり方ですからね。……うんと仇討、賛成ですね。

商店主(元町通り)……とも角、いままで培つて来た満州のことです。捨てて堪りますか。私はこれでも日露戦争に出たんですからな。料理屋女将(花隅)……これで景気がよくなりますと何よりです。

③ 九・一八(中国の歌)

わが家は、東北、松花江のほとり、

森あり、林あり、炭鉱あり、

ダイズ・コウリヤンも、山野みわたすかぎり。

わが家は、東北、松花江のほとり、

わが故郷は、そこにあり、

老いた父母も、そこにおわす。

九・一八 九・一八

このいたましいときから

わが故郷をのがれ出た。

父母よ、父母よ、むつまじく

また会えるのは、いつの日か。

## ④ 「満州国」での労働賃金

新京（長春）

職名		大工	左官	印刷工
国籍	日本人	1.80	1.80	1.00   1.50
	日人	2.30   3.80	2.30   3.80	3.50

授業展開

まず満州事変は、いつ、どこでおこった事件か地図を使って確認した。

T 「満州事変とは、だれがどんなことをした事件でしょう。」

C 「日本軍の関東軍が南満州鉄道の線路を爆破した。」

C 「とび出してきた中国兵を攻撃した。」

C 「日本軍の方が悪いんだけど、国民の関心を大陸へ向けた。」

C 「日本の関東軍指令部は、爆破したのは中国軍のしわざと発表して、奉天の北大營を占領した。」

事実を子どもに発表させたあと、満州事変のあった次の日の東京日々新聞（資料①）を配り、事実と報道のちがいを見つけさせた。

C 「本当の事は、日本軍が鉄道を爆破して中国軍を攻撃したけれど、この新聞には、中国軍の人が鉄道を爆破して日本の守備隊を攻撃したと書いてあるから、さかさまになっている。」

子どもの驚きを受けつつ、この報道を読んだ当時の人たちは満州事変をどう受けとったのか次の資料③を与えてみた。

C 「何も本当のことを知らない日本人がたくさんいるなあ。」

C 「国民は、新聞のまちがえた報道をまに受けてそれを本気にしている。」

授業の展開は事件からその原因を考えるかたちになっていく。

T 「ではどうして日本はこんなまちがった報道をしながらも、満州事変をおこしたんだろう。なぜ満州事変をおこす必要があったのだろうか。」

C 「日本は日露戦争で賠償金がもらえなくて、武器がちよどなくなるころに戦争が終わったので日本は不景気になっていて、それで満州事変をおこして賠償金をもらって景気のいい社会にしようと思いました。」

T 「当時の国会議員で松岡洋右という人物がいました。彼は国会でこんな発言をしました『満州は日本の生命線である。』生命線とはどんな意味かわかりますか。」

C 「この場合だと？」

T 「うん、みんなは生命線という言葉は、聞いたことがありませんか。」

C 「手に生命線がある。」

T 「手の生命線は何をあらわしていますか。」

C 「長生き」

T 「その人がいつごろ死ぬかわかるというすじですね。日本がいつ死ぬか、それが満州にある。どういう意味でしょうか。」

C 「日本は満州をたよりにしないと、日本の国があぶなくなる。」

C 「日本の生命が、満州をとるかとらないかにかかっている。」

C 「日本がこの不況から脱出できるかできないかが、満州をとることにかかっている。」

T 「満州という国は外国ですね。日本が国内の不況―苦しい状態を乗り越えられるかどうかというのが、外国の満州という土地にかかっているという意味ですね。」

T 「ではどうして日本はこの満州をとろうとしたのですか。満州の何がほしかったのだろう。」

C 「満州鉄道」

C 「資源」

T 「そうだね。満州という国は資源がたいへん豊かでした。どんな資源かな。」

C 「朝鮮のこと、思い出した。」

C 「炭鉱」

C 「森とか林」

このあといくつか教師の方から補足する。

T 「満州に日本の生命線をかけて、日本軍は満州事変をおこしました。このことをそこに住んでいた中国人はどう思ったのか。どう考えていたのか。」

と呼びかけ資料③を子どもに読みとらせた。

T 「同じ九月十八日を日本人は『これで景気がよくなれば』あるいは『満州全部いや中国全部占領したらいい』と言っているし、中国の人は『いたましいとき』とか『悲惨な日』と呼んでいます。このちがいはどこからきているのでしょうか。」

C 「日本は満州をせめた方であり、それが新聞では中国がせめたと言ってみんなそう思っているし、中国の方ではせめられて戦場になり自分の国のせいにされているので悲惨といった。」

T 「ところが翌年には独立国として満州国を日本はつくっています。侵略されましたが、満州国は独立国として国ができました。その満州の様子がどうであったのか、先生はおもしろい資料を見つけました。」

そうやって資料④を見せて説明した。子どもたちは『本国人』と『日人』のちがいを見つけた。

T 「満州にもともと住んでいた人たちよりも、後から来た日本人の方の給料が高い。これはどうしてだろう。」

C 「満州国というのは独立国と言っているけれど日本軍のあやつり人形みたいなものになって、だから本国人よりも日本人の方が上になっている。」

C 「土地は満州だけけど、上役というか政治の実権をにぎっているのは全部とっていいほど日本人であり、その日本人が本国人より日本人の給料を高くした。」

このあと「満州国という国は、中国人が自主的に自分からつくった国ではない」と発表したリットン報告書や、それを受けて一九三三年に国連を脱退したことを説明して、本時のまとめをした。

## ②戦争と国民生活

次の資料は一九三六年（昭和十一年）、小学校三年生の修身に使われた教科書の一部である。これは当時の国民（小学生）を戦争に向けて鼓舞するために利用されたものと思われるが、ここに国民が戦争体制に組みこまれていった一つの大きな仕組みがある。

この資料からその仕組みにせまることはできないか子どもたちに与えてみることにした。何も言わずにこの文を読み聞かせ感想を書かせてみると、次のようなものがあらわれた。



一二二 忠君愛國 ちゆうくわいこく



明治三十七八年戦役の時、陸軍騎兵隊大尉小林環は、上官のめいれいを受けて、度々敵の陣地に深くはいりこんで、敵の様子をさぐり、りつばなてがらをたてました。

或時、大尉は、敵の目をのがれるために、まづしい支那人に姿をかへ、はだしのまゝで、やみにまぎれて出かけました。とちゆうで敵にあやしまれ、何度も、とがめられたり、とらへられたりして、大そうなんぎをしました。しかし、いつもおしのまねをして、あやふいところをのがれ、しゅびよく敵の様子をさぐつてかへりました。



大尉の部下に、騎兵伍長向後三四郎といふ人がありました。伍長もまた、大尉について、度々敵の様子をさぐりに出かけましたが、いつも大尉を助けて、勇ましくはたらきました。小林大尉と向後伍長は、しまひには、「敵の陣地のずつと後の様子をさぐつて来い。」といふ、重

いめいれいを受けました。しかし、敵のまもりがきびしいので、進むことが出来ません。そこで、今度は満洲のひやくしやうに姿をかへ、荷馬車に乗つて出かけました。それから、二人は、きびしい敵のまもりをくゞり抜けて、幾日も飲まず食はずのありさまで、満洲の奥深くまではいりこみました。



さうして、敵のそなへをくはしく見とどけてかへる時、ざんねんにもとうとう敵に見破られてとらへられ、やがて殺されることになりました。しかし、二人は、しまひまで日本軍人であることを忘れず、おちつきはらつて、

「天皇陛下萬歳。」

ととなへ、勇ましいさいごをとげました。敵の人たちも、大さう感心して、「あつばれ、軍人の手本である。」と、ほめない者はありませんでした。

三年の教科書だなんて思えないような文だった。三年のころから戦争のことばかり覚えさせられてかわいそうだと思った。最後の方にある「天皇ほんざい」ととなえ、それを敵の人たちも感心したっていうのはきつとこの教科書を読んだ子に「お前はこんな子になれ！」って命令しているみたいだった。「戦争はいいことだ」というか「天皇のことをいつも……」っていう感じでいやな感じがした。

原口久子

もし私がこの文章を読んで勉強していたら、「この兵隊さんはえらいなあ。私もそれぐらいに天皇につくさなければ」とか、男の子なら「僕も大きくなったら、こんなりっぱな兵隊になりたい」とか思っていたとおもいます。でも今から考えると本当に、とってもへんてこな気がしてきます。今から考えると想像もつかないことを書いています。天皇のために命をささげるとか、最後に「天皇陛下ほんざい」と言えばりっぱな軍人になるのです。

自分たちが豊かに平和にくらすことを考えずに、日本の国の一部の人のためにやっているようです。そしてほとんどの人がこのまちがいに気付いていません。これもみんな軍人の考え方に流されてしまったんだと思います。

楠原 恵美子

この二人は日本人であることを忘れず「天皇陛下ほんざい」と言うのですごいと思った。小林たまきはお国のために働くとってもいい陸軍騎兵大尉と思った。騎兵伍長向後三四郎も大尉についてたびたび敵の様子をさぐりに行って勇ましく働いたのでいい人と思った。

藤沢 裕之

私は大尉が敵の様子を見てくるのはとてもこわいし、見つかったら殺されるのによく行ったなと思った。そしてこの大尉は支那人に姿をかえて敵の様子を見に行つて、もうちょっとで敵に見やぶられそうだったけれど、やつとこのことで帰ってきたので、私はよかつたなあとと思った。そしてまた今度は二人で敵の様子を見に行つた。この時もう見やぶられて、殺されてしまいました。その時「天皇陛下ばんざい」と言つて死んでいったのでえらいと思った。私は味方の人たちのために死んでいったのでえらいと思つた。勇気があつたと思ふ。

白 倉 由 起

初めの二人は仕組みに気付いており、後の二人は言わばその仕組みに染まつてしまつたわけだ。中には「これこそ軍人中の軍人だ」と感じた者も現れた。クラス三十二人中、前者のようにきちんと批判できた者は十四人、批判までいかなないが「三年生にしてはむずかしい内容だし、こんな話は本当かなあ。(あまりにはめてあるし、なんかうそっぽいから。)でもなんかわかりません……。藤田美穂」などと半信半疑の者が七人、そして後者のように「りっぱだ」とか「よくがんばつた」と感銘を持った者が十一人とわかれた。そこで子どもたちに討論させることにした。話し合いは批判した者が主導権をとり「そんなふうはこの話に感心してお国のため、天皇のために死んでいく人をつくろうとしたんやで」と感銘派を説得するといふかたちになった。批判できた者は、仕組みが見えているため理論で筋を通すし、一方感銘派は「そう言うけどみんなのため命まで犠牲にすることはすごい」とかなり感銘的にとらえているようである。

六年生と言へば見えないものを思考の対象とする抽象的な思考力が伸びてくる時期でもある。批判できた者は、その意味で一つ成長の節目を越えているのかもしれない。科学的な認識の基礎をどの子にも育てるためにも、自主的にいくつかの資

料を用意し、自分の考えを書いてまとめる機会を多く持つことにした。そのうちいくつかを紹介する。

(資料⑤)

一億対五人の戦い―「非戦」をつらぬいた人びと

第三回公判における最終陳述（一九四二年四月九日開廷）

裁判長……明石順三、何か言う事はないか

明石順三……私が今まで申上げた真理は神の言葉です。絶対に間違いはありません。現在、私の後についてきている者は四人（明石静栄、崔容源事佐野要三、玉石連事玉井良介、隅田好枝）しか残っていません。私ともに五人です。一億対五人の戦いです。一億が勝つか五人がいう神の言葉が勝つか、それは近い将来に立証される事でありましょう。それを私は確信します。この平安が私どもにある以上何も申上げる事はありません。

この資料からは、彼らが主張したことなどを説明し、五人のうち二人が女性で、二人は朝鮮人青年であったことに触れ、もっとも切実に自由や解放を願っていたのはこの人たちだったのかもしれないと教師自身の感想もつけ加えた。

(資料⑥)

「山奥さ入って、二人で一日泣いてきた」

終戦前に夫を失った未亡人はこんなことを話してくれました。夫の戦死の公報がはいった日、その父母は二人で山奥に姿を消し、夕暮れる頃帰って来た。すっかり声がつぶれていた。「なあに、山奥さ入って、二人で一日泣いて来たんだべも……」声を上げて泣くことはもちろん、涙をみせることすら非国民あつかいされた時代であってみれば、戦死したことの悲しみを、深夜家うちで細々と語っても、どうして他に口外し得たでしょう。

この資料については細い説明は必要なかった。「どうしてわが子をなくして人前で『いたかったらうね。』と泣けなかったのだろう。」と子どもに尋ねるだけで十分だった。

(資料⑦)

太平洋戦争開戦の日のラジオ番組

6・20	■◇30音楽
40	武士道の話「沢庵の不動智神妙録」
7・00	臨時■◇04ラジオ体操◇18臨時■◇20朝のことは「伊達政宗と大平洋」
41	■◇音楽◇50吹奏楽「皇軍の精神」
8・30	臨時■◇50ラジオ体操
9・00	国民学校放送「朝礼訓話」文部次官・菊池豊三郎
12	音楽◇20市況◇30臨時■
10・05	音楽◇20家庭婦人の時間「国と家のためになる郵便貯金」通信省管理局長
40	吹奏楽「軍隊行進曲集」
11・00	臨時■◇09音楽
30	臨時■ 40経済市況
0・00	君が代 詔書奉読「大詔を拝し奉りて」東条英機
16	大本営陸海軍部発表◇19吹奏楽「皇軍の意気」
30	政府声明朗読◇37■◇59■
1・09	■音楽
26	■音楽◇45市況
2・00	臨時■音楽
3・00	臨時■08職場への放送 音楽 ラジオ体操 音楽
30	■音楽
4・40	経済通信
5・00	臨時■◇14合唱「敵性絶滅」日本放送合唱団◇50番組予告
6・00	ラジオの前にお集まり下さい・情報局第2部第3課長宮本吉夫◇40少国民の新聞管弦楽「軍艦行進曲」合唱「海ゆかば」「國に誓ふ」
7・00	君が代 詔書奉読「大詔を奉りて」團東条英機13■
30	宣戦布告に当たりて国民に与ふ、情報局次長
8・01	朗吟「御民われ」「今日よりは(防人の歌)」◇04金融の非常対策 大蔵次官
15	吹奏楽「連合艦隊」◇24ニュース歌謡「宣戦布告」伊藤久男 霧島昇
30	全国民に告ぐ 防衛総参謀長◇40吹奏楽「海ゆかば」
9・00	吹奏楽「世紀の進軍」「海洋航空の歌」合唱「愛国行進曲」
10・00	きょうの戦況と■
11・00	■(放送終了前0・08)

あさ

ひる

よる

これは太平洋戦争開戦の日のラジオ番組である。「臨時ニュースばかりや」と子どもの声がすぐあがる。このニュースで、あたかも連戦連勝しているかのように戦況を伝えていたことを教えた。また吹奏楽や合唱などが多いので、そこに赤線を引き、その曲名を言わせてみた。どれも勇ましいものばかりだ。いくつか実際に聞かせることができればより効果的だったと思う。

こうやって授業を続けながら子どもにも感想を書かせた。確かに子どもの意識は変わりつつある。修身の教科書に感銘した藤沢君はこうつぶっている。

非国民と言われながら自分の意見を押しきった五人は勇者だと思った。それに五人のうち一人は女性というものにびっくりしました。それに二人朝鮮人がいて自分の国と戦うのはいやだと思った気持ちもよくわかります。(中略) 非国民と言われない婦人などの中でも本心は戦争反対の人もいたと思います。それだけではなかったと思います。たぶん戦場に行った人、日本に残った人全員が戦争反対だったと思います。やはり今のように国民主権で国民に一度聞いてから戦争をするしなを決めてほしいです。独裁政治はきらいだ。

戦争のために小さい子どもやたくさんの方が戦争の武器作りなどにかりだされてかわいそうだなと思いました。集団疎開をさせられた小学生たちは親もとから別れてさびしかっただろうなあ。それに子どもたちは、もうほとんどが「お国のために自分も……。」と考えていて、今の子どもとは全然ちがうなあ、子どもからの教育でいざぶちがうんだらうつ、小さいころから戦争が続いていて非国民にならないように教えられていたら、どのような人になっていただろうなあと考えています。太平洋戦争開戦の時のラジオの一日の資料を見て気付いたことは、臨時ニュース、戦争に関する歌が多いなあと思いました。臨時ニュースでは、戦争に勝ったりしていないのに勝ちかけているとか、日本は満州事変の時も新聞でうそを書いたし、日本は自分勝手というか、そのようなうそをついていることを敵国の人が知ったらどう思うかな。きっと日本人はうそつきだとかいう人がいるんじゃないかと思う。

戦争になって涙を見せても非国民だということと言われるのはびっくりしました。戦争でたくさんの方がなげき、悲しみ、つらいおもいをしてきた人がいて、みんなが戦争を反対して、その人たちの苦しみが自分に向いたらどうなるん

だろうかよく考えてほしい。でもそう簡単にはいかないけれども、戦争を反対する、それもたくさんの人たちに向かって五人だけで勇気のある人だ。こんな人が世の中にたくさんいたらいいなあと思った。その明石順三という人が言っていた「それは近い将来、立証される」という言葉通りになり、五人よりも多くの人が戦争反対をしていたんだなあと思っ  
た。

吉野 恵美子

### ③ 「大東亜共栄圏」とは

日本政府が唱えた「大東亜共栄圏」とはいったいどんなものであったのか、この戦争の本質が侵略にあったことをわからせるため、角度をかえて侵略された他民族がどうとらえていたのかを示すため、他国の教科書の記述に注目させることにした。なお授業では冒頭に七三一部隊のことにも軽くふれ、被爆した在日朝鮮人のことも説明した。

#### インドネシアの教科書

日本はインドネシアに、多くの要塞を建設した。われわれは要塞造りの労働を強制的にやらされた。われわれはまさに強制されたのである。われわれは「ロームシャ」(労務者)にされた。「ロームシャ」とは日本人によって強制労働させられた人のことである。農民、労働者はあたかも奴隷のように家屋敷をすて、他の地方、つまりジャワ、スマトラ、イリアン(ニューギニア)、ビルマ、タイなどに連れていかれた。彼らはジャングル、沼沢池、海岸などで働かされた。「ロームシャ」は酷使されたのだ。彼らの生活はどんなだったのか?食物は不十分、住家はブタ小屋なみ。その結果何千人もの人が死んだ。餓死、病死、虐待による死。何千人もの人がぼろぼろにされて死んでいった。

わが民族の苦しみはきわめて大きかった。コメを日本軍に強制供出させられて、われわれは飢えた。着物も薬も不足した。不足しないものはなかった。人びとは恐怖と不安の日々を送った。日本に反抗しようとする気配をみせれば、逮捕され、拷問にかけられ、そして投獄されるか殺されるかしたものである。老若男女の区別はない。『わが民族の歴史』（小学校五、六年用・一九六二年発行）

#### オーストラリアの教科書・一九七九年

オーストラリアの教科書（一九七九年）では、近代日本が行った戦争の記述のなかで、「きけわだつみの声」から特攻隊の学徒兵の日記を引用し、つぶさにその心理を描き出し、次のように問いかけている。

……この若い日本人について先生やクラスメートたちと話し合ってみよ。この日本人の心にかんだ思いは何だったのだろうか。われわれはまた日本人も、同じように戦争をいやがっていたことを忘れてはならない。かれらも愛、喜び、望み、恐れ、絶望などの個人的感情に富むひろい人間家族の一員なのであった。どうしたらわれわれはこのような仲間の人間たちに開かれた心を以て接近できるであろうか。

#### 瀬田万之助 三重県出身・東京外国語学校卒業。昭和十八年十二月入営。二十年三月ルソン島にて戦死。二十一歳。

マニラ湾の夕焼けは見事なものです。こうしてぼんやりと黄昏時の海を眺めていますと、どうして我々は憎しみ合い、矛を交えなくてはならないものかと、そぞろ懐疑的な気持ちになります。避け得られぬ宿命であったにせよもっとほかに、打開の道はなかったものかとくれぐれも考えさせられます。

あたら青春をわれわれは何故、このような惨めな思いをして暮らさなければならぬのでしょうか。若い有為の人々が次々と戦死していくことは堪らないことです。



中村屋の羊羹が食べたいと今ふっと思い出しました。

またお便りします。このお便りが無事に着けばいいのですが……兄上、姉上、そして和歌子ちゃんにくれぐれもよろしく。

「ロウムシャ」という言葉はすでにインドネシア語になっているそうだ。日本の占領時代、重労働を強いられた人々と辞書に載っている。動詞として使われているが、不思議なことに受動態しかない。自らすきこのんで働いたわけではないからだ。

こういった傷あとを「大東亜共栄圏」と称した国々に日本は残したわけである。

オーストラリアの教科書は記述の角度が違っている。引用された学徒兵の日記はのっていないなかったので、こちらで用意した。罪を憎み、人を憎まずといったところがあり、同じ人間として日本人を理解しようという姿勢が感じられる。それはどうすれば平和な世界が築けるのかという展望さえ与えてくれるように思われる。教師のおもいを語る場が多くなりどこまで子どもにわかるか疑問だったがこんな感想が生まれた。

私はこの日の勉強にはびっくりしました。日本軍がそんなにもごんごんことをしていて、日本軍はなんてごんごんな人ばかりなんだろうと腹が立ちました。同じ人間なのに区別など、その人は自分よりおとると考えるから物みたいにポイポイと殺していけるのだろうか。朝鮮の人はかわいそうだ。今でも差別をされていて広島公園の中にひを入れた方がいいのに、日本はあんなかわいそうなことをしてごんごんだなと思います。日本人もかわいそうだけれど、朝鮮人も無理やり連れてこられ、何も関係ない争いに巻き込まれて死んでいくなんて、日本をうらむのも無

理がないと思います。

日本がざんくなくことをして悪いことを教科書に書かれても仕方がないけど、今そんなことを書いている教科書を読んで、今勉強しているのかと思うとやっぱり心がいたくなりません。日本軍がよくもこんなことをやろうとした気持ちがありません。でもオーストラリアの教科書は本当にうれしく思いました。こんな人もいることをたくさん知ってほしいです。でもこのように書いてはいても、こんなことをしたことは消せない事実なのだから弁解はしても、やったことはやったのだから。戦争で何をとくするのですか。人がきずつくだけ。国をとったって、今の日本だけで十分じゃない。戦争などおそろしいことは、二度とおこしたくない。

吉野 恵美子

#### ④地域のほりおこしへ

戦争というものが遠い外国の地であつたものでなく、自分たちの住んでいる地でもあつたものと認識させるため、祖母に聞きとりをすすめたり、また地域の戦没者のお墓調べなどをさせてグループごとに壁新聞にまとめさせることにした。例えば数少ない空襲の話を富田恭之君は聞きとってきた。

#### 。四條畷のおばさんの話

おばさんが五年生の時、阪合国民学校に七月十九日の昼前に警報がでたので学校から急いで帰ると中、山のかきの木のところで飛行機が飛んできたのでかくれて見ていたら、飛行機に乗っている人まで見えた。その時、校長先生は泰安殿の鍵をとり校長室へ行ってばくげきにあい、おなかにたまがあたって用務員の人にリアカーにのせてもらって医大

に行っただけで出血多量で死んでしまったらしい。校長先生は四十二才で四月に校長先生になったばかりでした。そして学校のそう式だったので写真とか持ってならんでいったそうです。学校は一階建てなので工場とまちがえてばくげきされたらしいです。まだはつきりと覚えているそうです。

。お父さんの話

お父さんが小学校に入った時、門柱（石）は空しゅううのために欠けてあった。学校のへいにも小さな穴がいっぱいあったそうだ。

⑤ま とめ — 「十五年戦争はとめられたのか」

「十五年戦争」のまとめとして「この戦争はとめられたんだろうか。どんなことでもできるとすれば、どうやってみんなはこの戦争をとめるか」というかたちでみんなに考えさせてみた。子どもたち自身が戦争の持つ仕組みやこの戦争の本質をどれだけつかんだのかまとめさせるのと、討論の中で子どもたちの認識を深めること、そして次の日の日本国憲法を生み出す力となったものと密接な関係にあることをわからせたかったという三つがねらいだ。

子どもをまとめを見てみよう。

日本は満州ばかりではなく、中国全土を日本の領地にしようとした。そのため中国の人を苦しめ、日本人も多く死んだ。他の国を自分の国にすることは、悪いことです。このために日本は太平洋戦争へとすすんでいきました。

。少数の人だけが戦争に反対するのではなくて、国民全員が戦争を反対したら十五年戦争はとめられたと思う。

。政治家やマスコミの人たちが軍部に負けないで正しいことを国民に知らせたら、戦争はとめられたと思う。

白倉由起

この子どもは修身の教科書に感動した子であるが、この戦争は他の国を侵略したものであり、正しいことを伝えなかった政治家やマスコミにも責任があると認識を変えている。同じく感動した東野朗子さんも、「何のつみもない国民に無理やり戦争に賛成させたりしては、未来は生まれれないと思います。」と意見を述べている。荒井享介君は「国の方針（大日本国憲法）がまちがっていたと思う。皇帝の権力の強いプロシアの憲法をまねたので、天皇の独さい政治のようになってしまった」と憲法に目を向けている。

六つの班でそれぞれ討論し、三つにしばらせてみた。この中でクラス全員が十五年戦争はとめられたという考えを持ってきた。

### 一班

- 。日本が戦争のきっかけをつくらなかったらいい。①
- 。天皇が戦争をはじめたので天皇が戦争きらいだったらいい。②
- 。国民全員が戦争に反対したらいい。③

### 二班

- 。日本の政治を民主主義にすればよかった。④

。中国に二十一ヶ条の要求をださなければよかった。⑤

。日清戦争を起こさなければよかった。⑥

### 三班

。「戦争禁止」の教育を子どもたちにする。⑦

。戦争をやめるためにピラや署名運動をする。⑧

。天皇に「戦争をやめよう」と訴える。⑨

### 四班

。国どうし集まり話しあえばよい。⑩

。みんなに事実を話しておけばいい。⑪

。不景気になったからといって戦争をおこなえばよかった。⑫

### 五班

。天皇になる。⑬

。国際連盟の会長になる。⑭

。国民全員が戦争に参加しない。⑮

### 六班

。国民で一揆を起せばよかった。⑯

。政府が国民の意見を聞いていればよかった。⑰

。一人一人が自分の命を大切にすればよかった。 ⑮

出あったあと話し合いをもつと、③⑧⑨⑮に対して当時は戦争に反対することは治安維持法などがあり簡単にはできなかったから、④や⑰のように国民中心で、国民の声がもっと政府にとどくようにすべきではという批判がでた。それに対して③などを主張した子どもは、そんな中だからこそ一人でも多く勇氣ある声を出すべきだと反論した。かなり「一億対五人の戦い」が頭に残っているようである。

荒井君の作文を参考に当時の国の方針（憲法）をどう変えればいいのか、何が欠けていたのだろうという方向でまとめていくことにした。

。②④⑨⑬⑰……天皇などのようにある特定のしかも少数の人に権利を与えず、もっと国民の声が政治に反映されるべき。

。①⑤⑥⑩（⑫⑭）……他国を武力で侵略すべきでない。

。⑦……戦争をすすめる教育はすべきでない。

。⑪……事実の報道

。③⑬⑯⑱（⑧⑨）……国民一人一人が戦争に反対する強い意志と豊かな心を持つべき。

そして、これらのことが今の憲法（新しい憲法のはなし）や国と国とのきまり（国際連合憲章など）にどうもこまれているのかと、戦後の学習につないでこの実践を終えた。

〔参考文献〕

- 。安達喜彦 『十五年戦争学習資料』（上・下）一九八五 汐文社
- 。家永三郎 『日本の歴史』 一九七七 ほるぷ
- 。江口圭一 『十五年戦争小史』 一九八六 青木書店
- 。森村誠一 『悪魔の飽食』 一九八一 光文社

（奈良教育大学教育学部附属小学校教諭）